

上越市観光交流ビジョンに基づく

上越市の観光に関するデータ集2021

DATA BOOK

令和3年度

目次

1. 観光入込客数	1
2. 宿泊	6
3. インバウンド	13
4. 観光消費額	15
5. その他	16

——上越市の観光に関するデータ集とは？——

令和2年度を初年度とする「上越市観光交流ビジョン」は、観光の取組を行うにあたって、方向性を共有し地域一体となって取組を進めることができるよう、「A.観光マインドの底上げ」「B.受入環境の整備・充実」「C.プロモーションの工夫」「D.データの活用」の4つの「基本取組」を設定しました。

本書は、「基本取組」の「D.データの活用」に基づく取組として、当市の観光の状況や客観的なデータをまとめ、年々、変化が速くなっている観光の動向を把握するために作成したものです。

私が好きな上越の景色
伝えたい上越の魅力

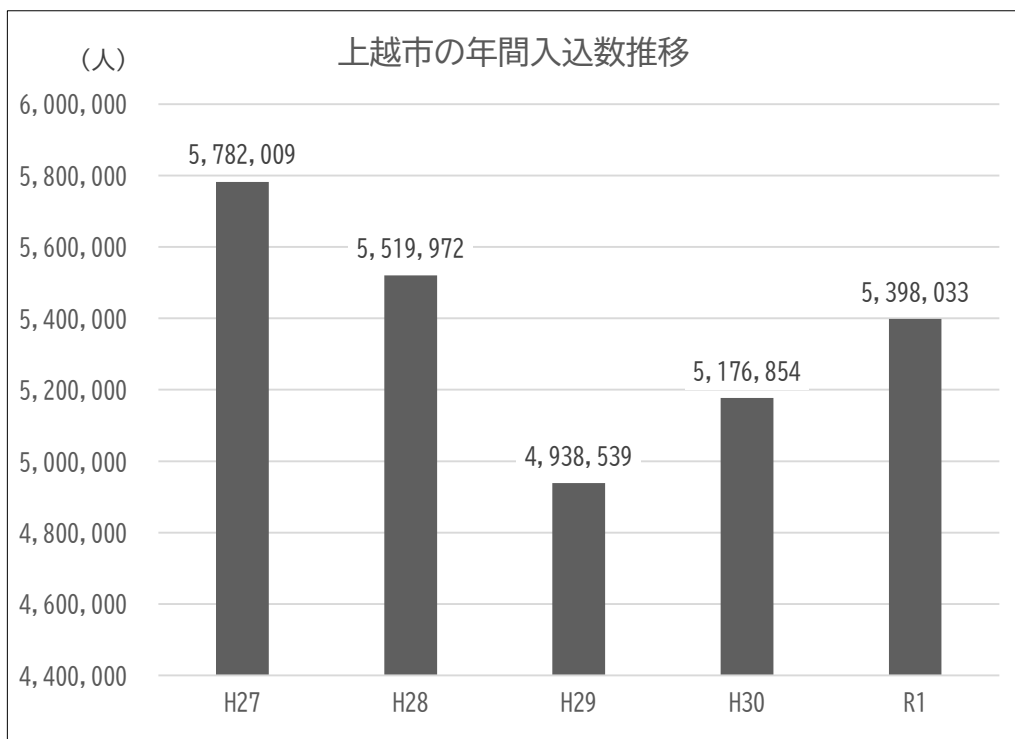
#上越もよう
My Favorite Joetsu

けんけんす

1. 観光入込客数

上越市の観光入込客数(年間)

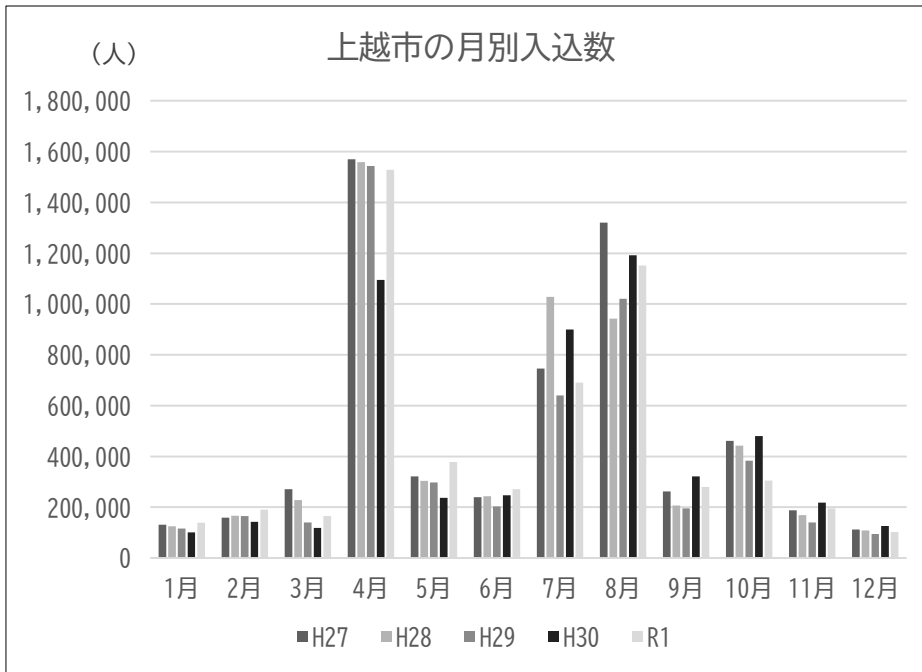
- 平成28年は、平成27年の北陸新幹線上越妙高駅開業イベントが単年度のイベントだったこと及び謙信公祭へのタレント招致をとりやめたことによる影響等から減少した。
- 平成29年は、上越市立水族博物館のリニューアルに向けた閉館、天候不良による海水浴客の減少等の影響により大幅に減少した。
- 平成30年は、同水族博物館「うみがたり」のリニューアルオープンにより大きく増加した。
- 令和元年は、観桜会開催期間に桜が見頃となったことや、歴史博物館のリニューアルオープンに伴い増加した。



出典：新潟県観光入込客統計調査を基に上越市で作成

上越市の観光入込客数(月別)

- 入込数を月別の推移で見ると、いずれの年も主要なイベントが開催される、4月・7月・8月（7月及び8月には海水浴場もオープン）の入込が多いのに対し、主なイベントが無い月の入込は落ち込む傾向となっている。
- 月ごとの入込数の傾向は、どの年も概ね同程度であるが、天候の影響を受ける海水浴客シーズンの7月、8月の入込数は年によりばらつきがある。



	H27	H28	H29	H30	R1
1月	131,211	124,641	115,993	100,746	139,369
2月	158,436	165,990	165,105	142,720	190,883
3月	270,503	227,655	140,416	118,389	165,087
4月	1,569,641	1,558,173	1,543,697	1,094,918	1,528,437
5月	322,035	304,149	297,143	236,462	378,185
6月	239,638	242,788	202,918	246,714	271,390
7月	746,508	1,027,650	639,740	899,810	690,457
8月	1,320,192	943,141	1,020,999	1,192,024	1,151,645
9月	261,987	206,417	195,307	321,462	279,737
10月	461,887	442,391	383,493	480,021	305,701
11月	188,172	168,471	139,571	217,827	194,900
12月	111,799	108,506	94,157	125,761	102,242
合計	5,782,009	5,519,972	4,938,539	5,176,854	5,398,033
対前年比	105.7%	95.5%	89.5%	104.8%	104.3%

出典：新潟県観光入込客統計調査を基に上越市で作成

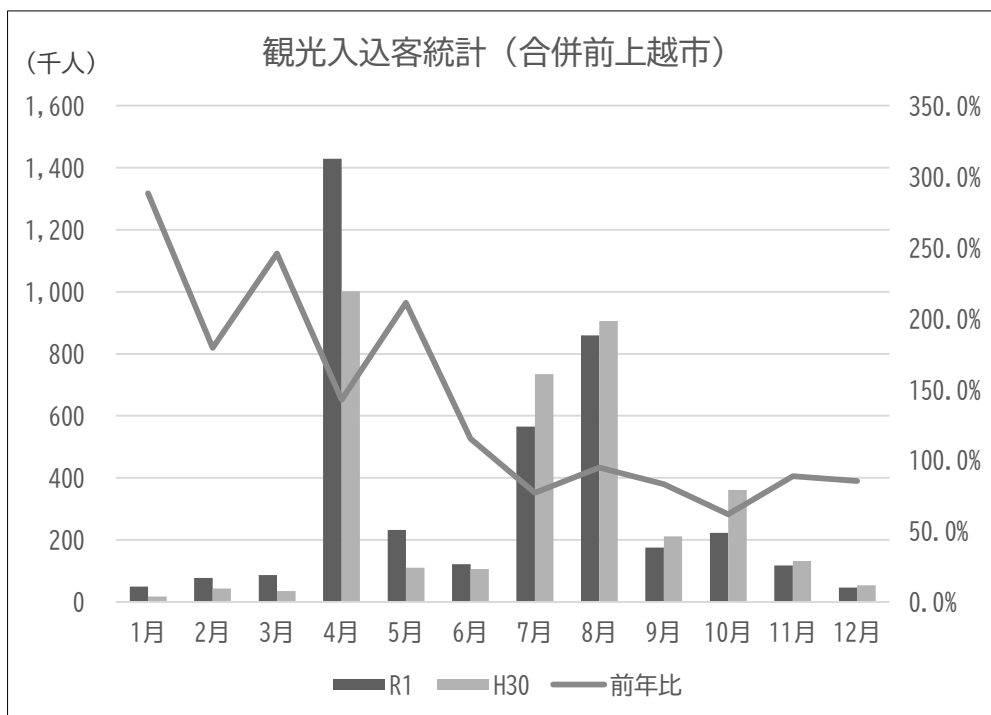
上越市の観光入込客数(合併前上越市)

- 平成30年と令和元年を比較すると、うみがたり（H30.6オープン）と歴史博物館（H30.7オープン）のリニューアルオープンなどの影響から、1月から5月までの増加率が大きい傾向が見られた。
- 一方で、10月の入込が前年の約6割程度に落ち込む傾向にあった。

(単位：千人)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月
R1	49	77	86	1,429	232	122
H30	17	43	35	1,002	110	106
前年比	288.2%	179.1%	245.7%	142.6%	210.9%	115.1%

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
R1	565	859	175	223	117	46	3,981
H30	734	906	211	361	132	54	3,710
前年比	77.0%	94.8%	82.9%	61.8%	88.6%	85.2%	107.3%



出典：新潟県観光入込客統計調査から上越市で独自に作成

※各月の入込人数は1,000人未満を四捨五入

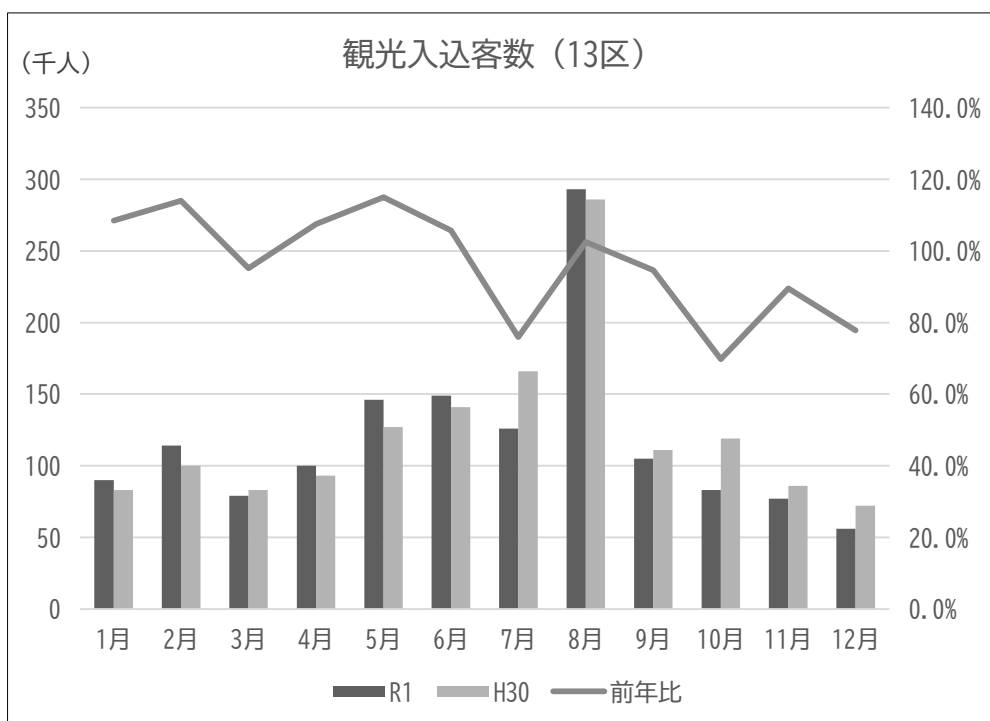
上越市の観光入込客数(13区)

- 平成30年と令和元年を比較すると、2月と5月に増加率が大きい傾向が見られた。
- 一方で、10月の入込が前年の約7割程度に落ち込む傾向にあった。

(単位：千人)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月
R1	90	114	79	100	146	149
H30	83	100	83	93	127	141
前年比	108.4%	114.0%	95.2%	107.5%	115.0%	105.7%

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
R1	126	293	105	83	77	56	1,417
H30	166	286	111	119	86	72	1,467
前年比	75.9%	102.4%	94.6%	69.7%	89.5%	77.8%	96.6%



出典：新潟県観光入込客統計調査から上越市で独自に作成

※各月の入込人数は1,000人未満を四捨五入

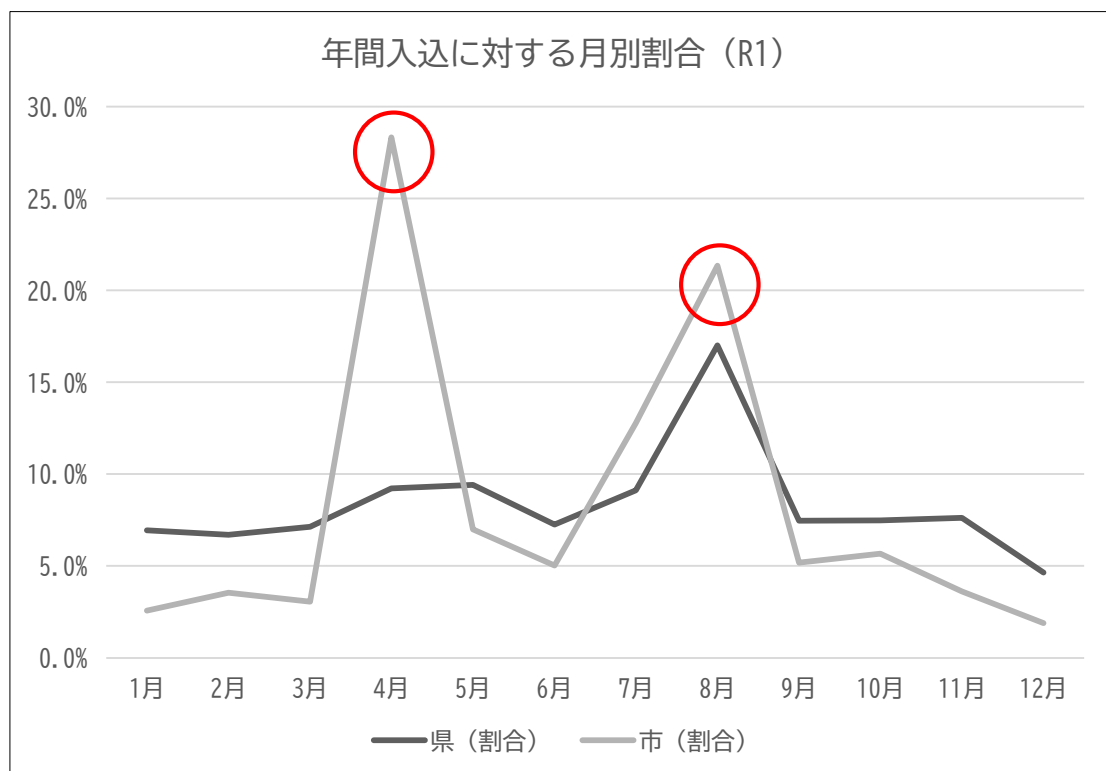
新潟県と上越市の年間入込に対する月別割合

- 新潟県で一番入込数が多い8月は全体の約2割であり、2番目に入込が多い5月と合わせても全体の3割弱である。
- 上越市で一番入込数が多い4月は全体の約3割であり、2番目に多い8月と合わせると年間の5割を占めている。

(単位：千人)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月
新潟県	5,093	4,906	5,228	6,765	6,902	5,322
上越市	139	191	165	1,529	378	271
県(割合)	6.9%	6.7%	7.1%	9.2%	9.4%	7.3%
市(割合)	2.6%	3.5%	3.1%	28.3%	7.0%	5.0%

	7月	8月	9月	10月	11月	12月
新潟県	6,682	12,467	5,467	5,480	5,589	3,402
上越市	690	1,152	280	306	195	102
県(割合)	9.1%	17.0%	7.5%	7.5%	7.6%	4.6%
市(割合)	12.8%	21.3%	5.2%	5.7%	3.6%	1.9%



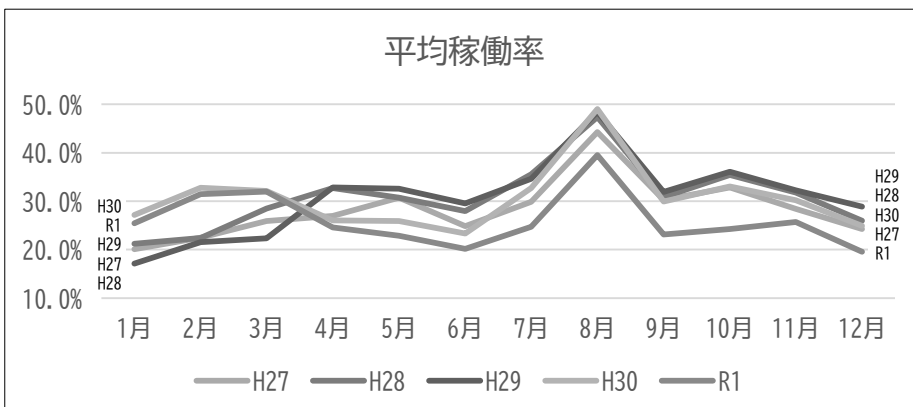
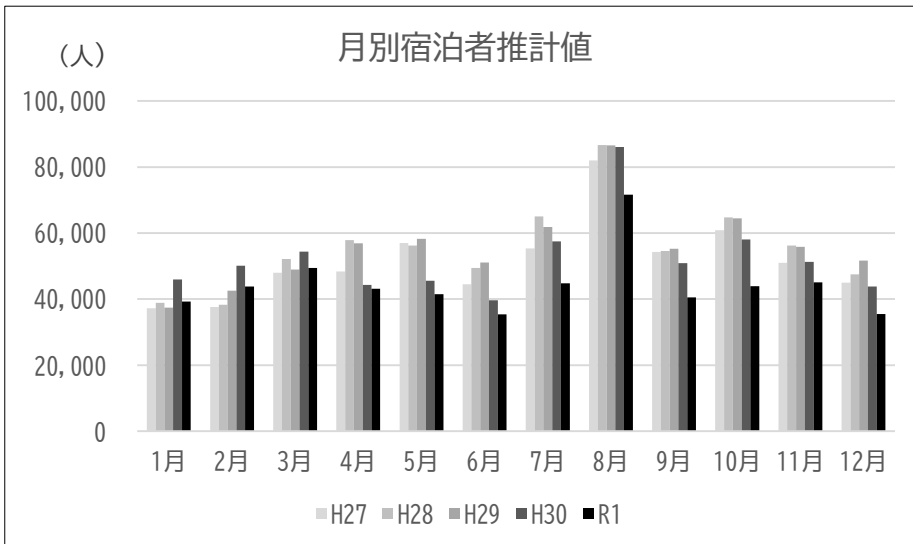
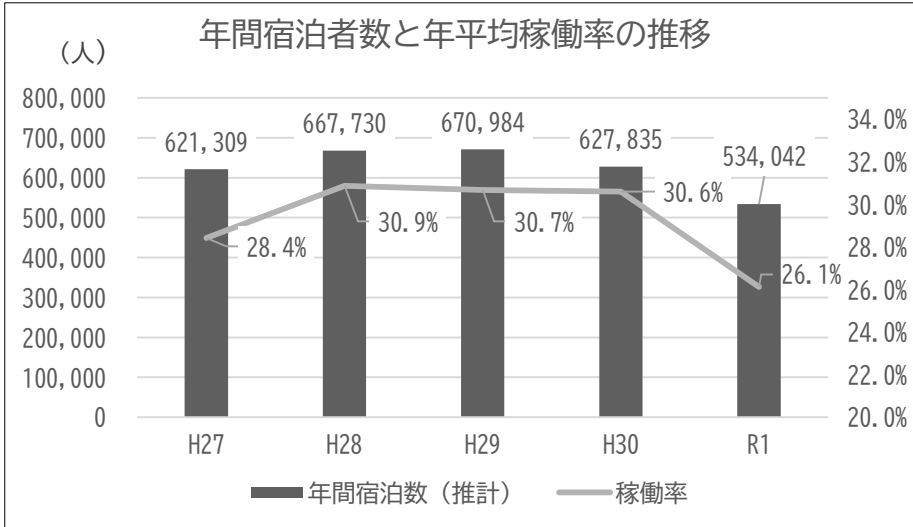
出典：新潟県観光入込客統計調査を基に上越市で作成

※各月の入込人数は1,000人未満を四捨五入

2. 宿泊

上越市の宿泊者数(年間)

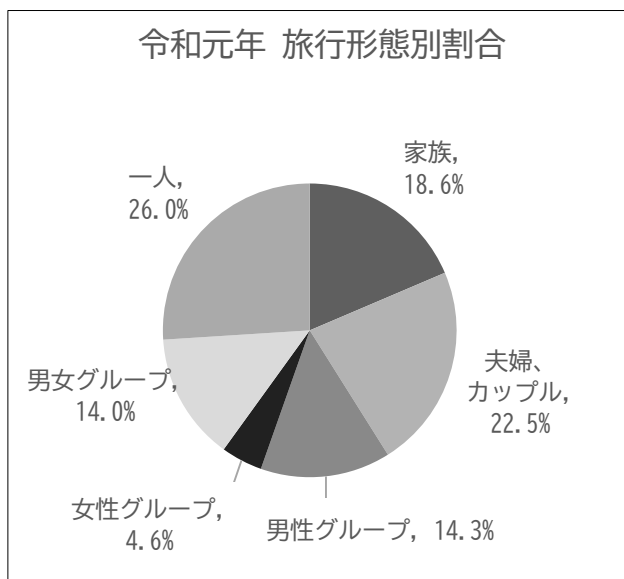
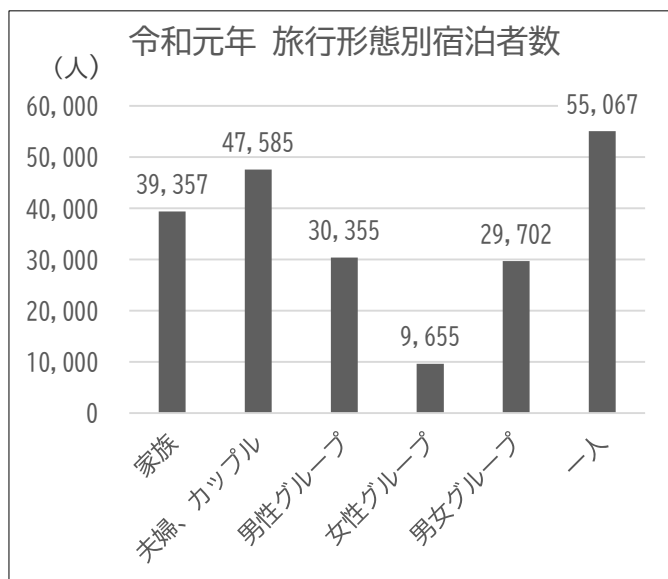
- 近年の年間推計宿泊者数は、おおむね60万人前後で推移している。
- 年間平均稼働率は、いずれの年も約3割前後で推移している。
- 月別で見ると、海水浴シーズンである8月の宿泊者数及び稼働率が最も高く、冬場は宿泊者が落ち込む傾向にある。



出典：宿泊事業者への上越市独自調査を基に作成

旅行形態における傾向(RESAS地域経済分析システムより)

- 旅行形態別では、「一人客」が最も多く、次いで「夫婦、カップル」、「家族」の順に多い。
- 割合では、「家族」「夫婦、カップル」「一人」がそれぞれ20%~30%を占めている。一方で、「女性グループ」が5%と割合が低い傾向にある。



出典：RESAS地域経済分析システム「From-to分析(宿泊者)」分析

本グラフの表示方法：観光マップ>From-to分析(宿泊者)>市町村単位で表示する>属性別に見る>参加形態別で表示する

※RESAS地域経済分析システムと市の宿泊者数調査の手法が異なるため、P 6の数値と一致しない。

地域経済分析システム (RESAS:リーサス) とは

RESAS (「Regional Economy (and) Society Analyzing System」の略) は、地域経済に関する様々な官民ビッグデータ (産業、人口、観光、農業等) をわかりやすく「見える化 (可視化)」し、地方自治体による地方創生をはじめとする様々な取り組みを情報・データ面から支援するため、平成27年4月より内閣官房 (まち・ひと・しごと創生本部) 及び経済産業省が提供しているシステムです。

(経済産業省北海道経済産業局 総務企画部企画調査課ホームページより)

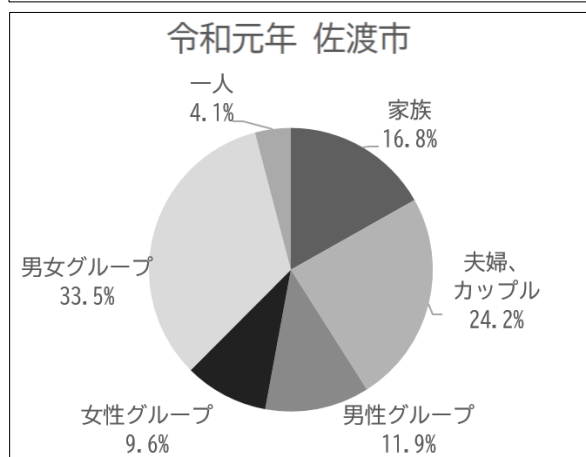
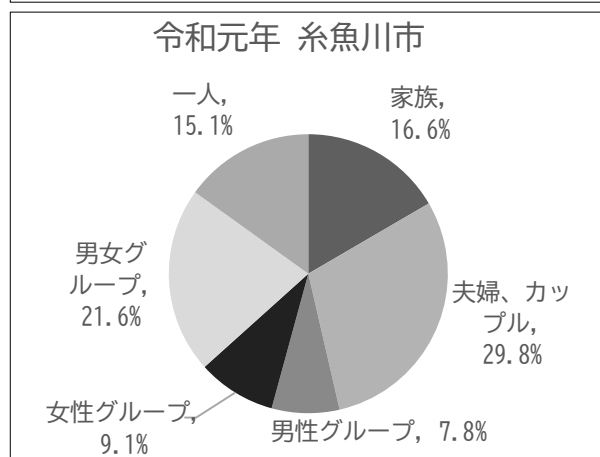
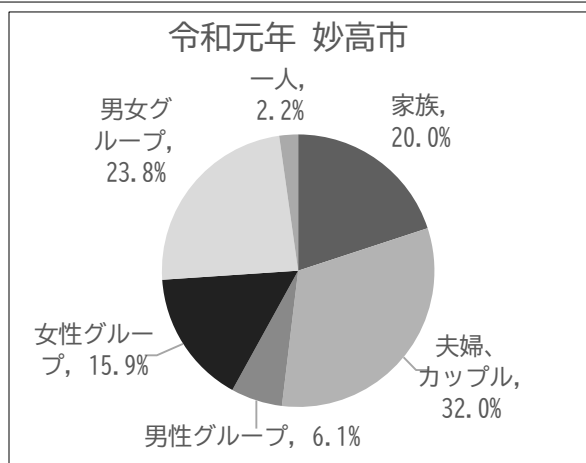
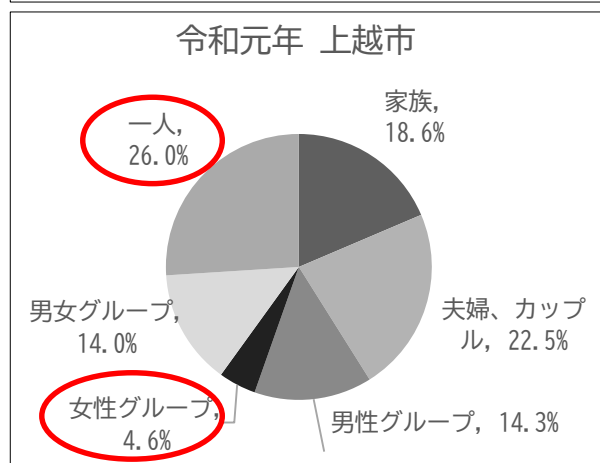
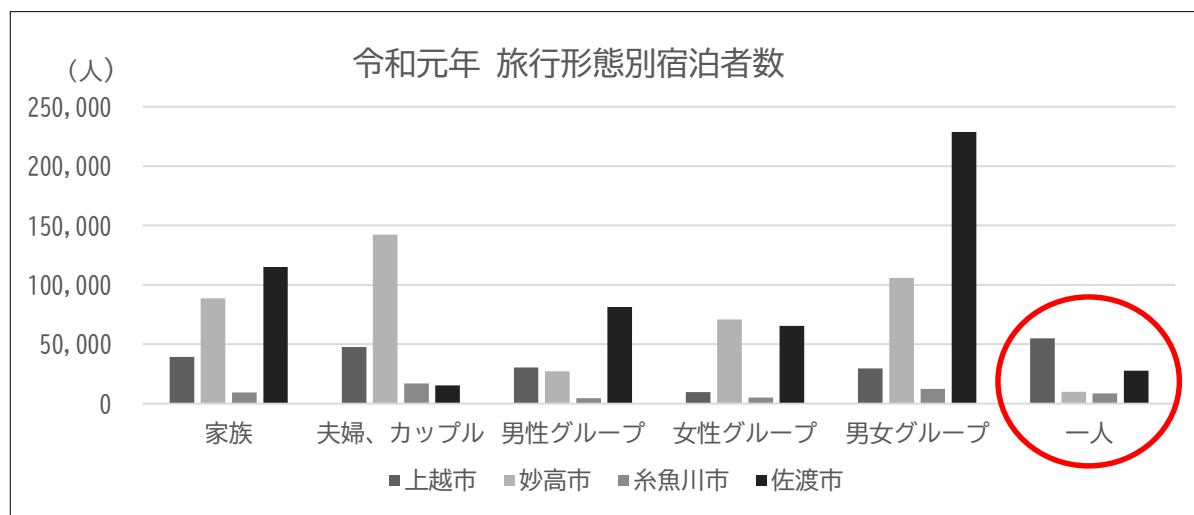
<https://www.hkd.meti.go.jp/hoksr/20180115/resas.pdf>

RESASの特徴

- ✓インターネットで誰でも利用可能
- ✓分かりやすい画面操作
- ✓データに基づいて、地域の実情を把握・分析できる

旅行形態における近隣市との比較(RESAS地域経済分析システムより)

- 「家族」を占める割合は、いずれの市でも約20%程度である。
- 「一人」をみると、上越市は他市と比べて宿泊者数が一番多い。割合では全体の26%を占めており、他市よりも「一人」が占める割合が高い。
- 一方で、「女性グループ」の占める割合は5%程度で、他市と比べても割合が低い傾向にある。



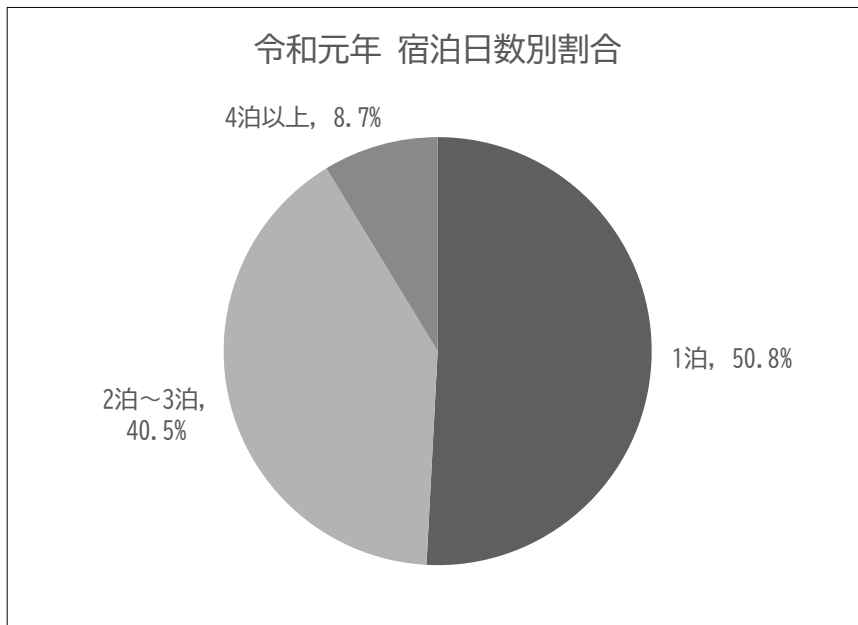
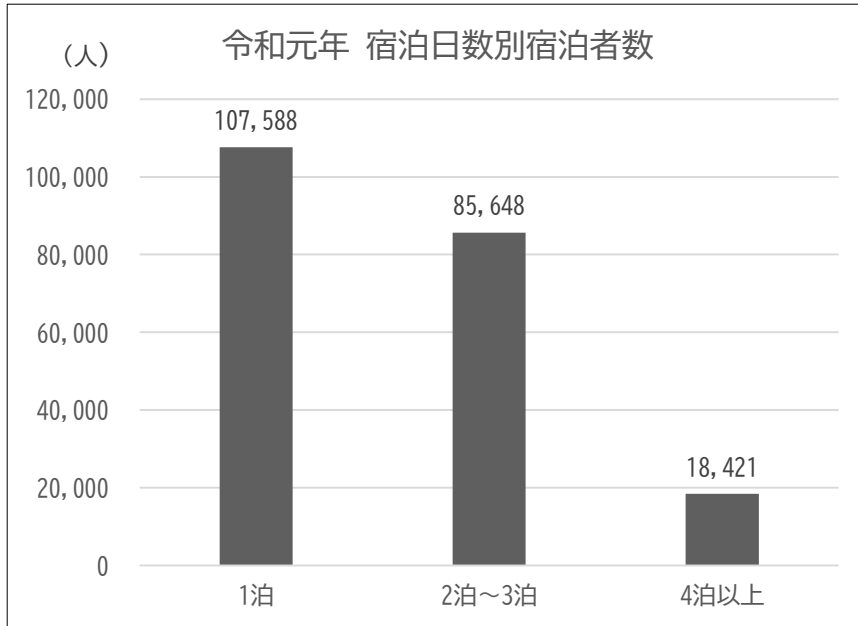
出典：RESAS地域経済分析システム「From-to分析(宿泊者)」分析

本グラフの表示方法：観光マップ>From-to分析(宿泊者)>市町村単位で表示する>属性別に見る>参加形態別で表示する

※RESAS地域経済分析システムと市の宿泊者数調査の手法が異なるため、P6の数値と一致しない。

宿泊日数における傾向(RESAS地域経済分析システムより)

- 宿泊日数別では「1泊」が一番多く、宿泊日数が長くなるにつれて宿泊者数が少なくなる傾向にある。「4泊以上」の宿泊者数は1泊のそのの2割弱程度である。
- 宿泊日数別割合をみると、「1泊」が半数で、「1泊」と「2泊～3泊」で9割を占める。



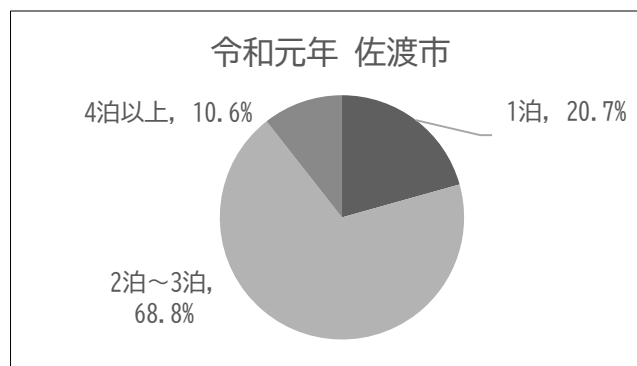
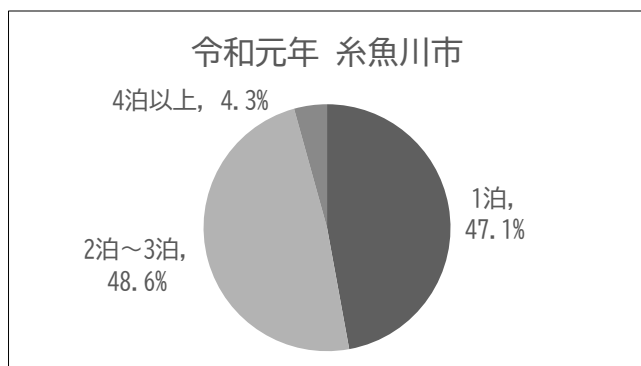
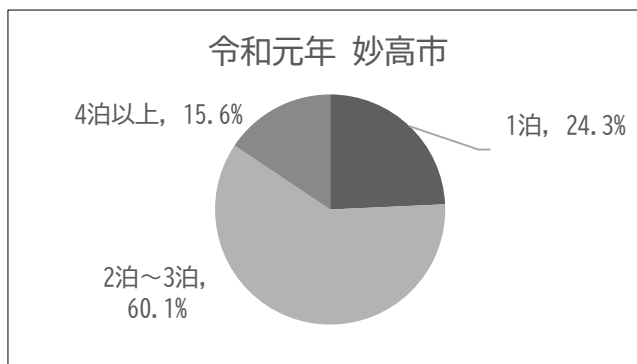
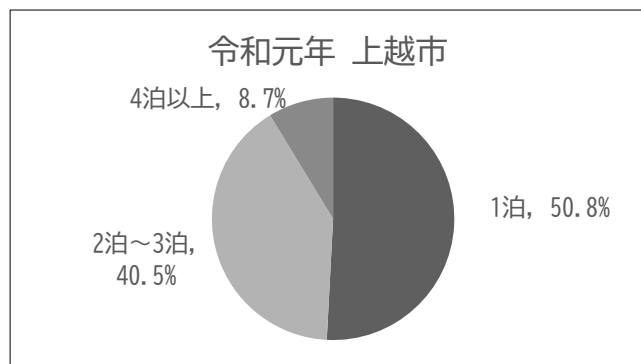
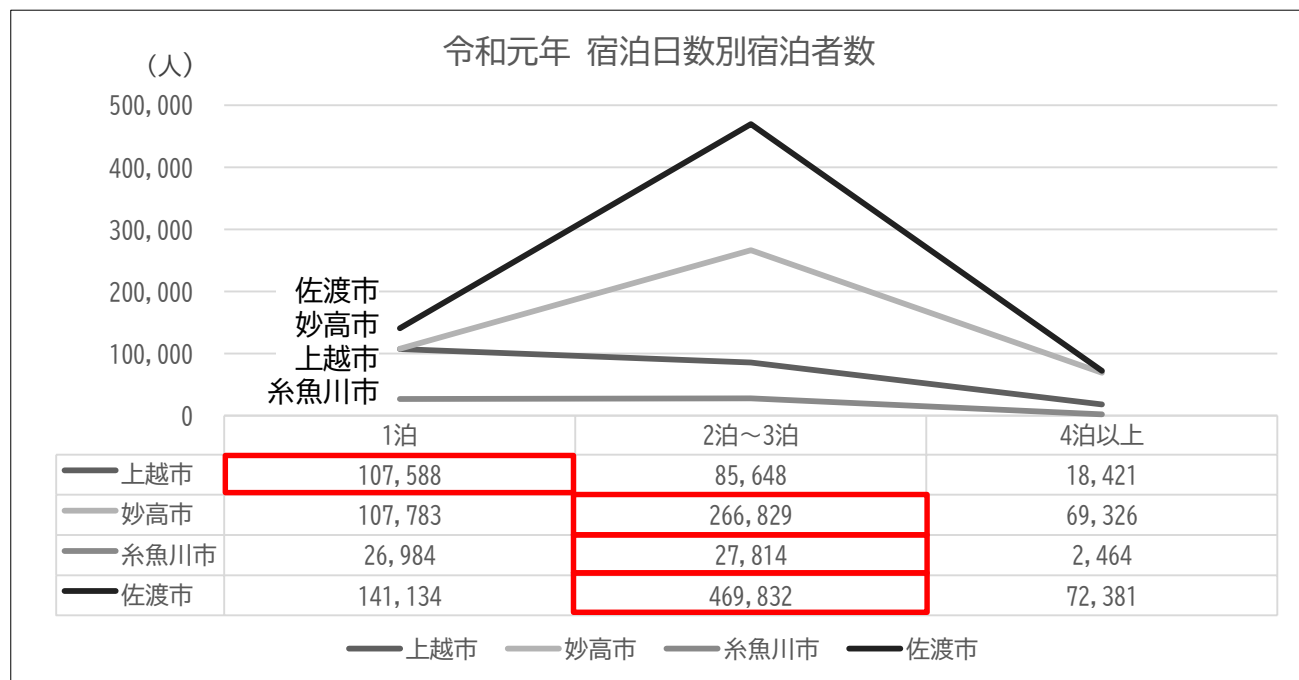
出典：RESAS地域経済分析システム「From-to分析(宿泊者)」分析

本グラフの表示方法：観光マップ>From-to分析(宿泊者)>市町村単位で表示する>属性別に見る>宿泊日数別で表示する

※RESAS地域経済分析システムと市の宿泊者数調査の手法が異なるため、P6の数値と一致しない。

宿泊日数における近隣市との比較(RESAS地域経済分析システムより)

- 上越市は「1泊」の宿泊者数が一番多く、他市は「2泊～3泊」が一番多い傾向にある。
- 割合で見ると、糸魚川市と類似した傾向となっている。



出典：RESAS地域経済分析システム「From-to分析（宿泊者）」分析

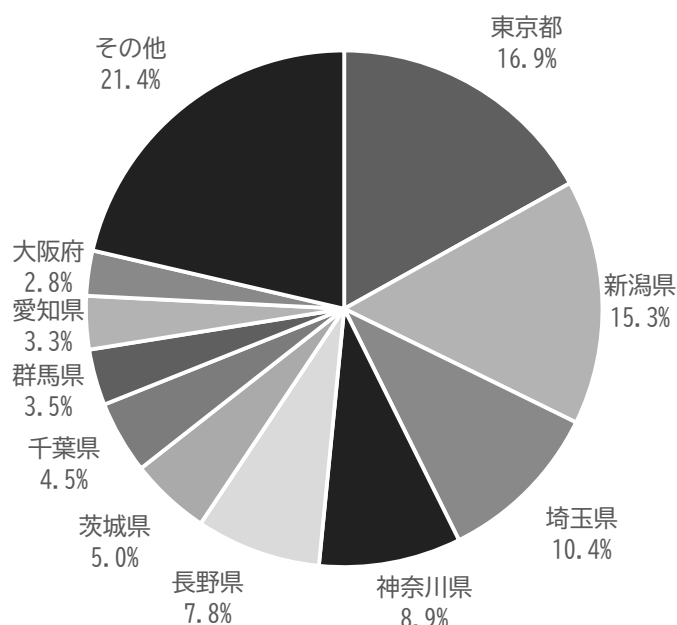
本グラフの表示方法：観光マップ>From-to分析（宿泊者）>市町村単位で表示する>他地域と比較する>宿泊日数別で表示する

※RESAS地域経済分析システムと市の宿泊者数調査の手法が異なるため、P6の数値と一致しない。

都道府県別における傾向(RESAS地域経済分析システムより)

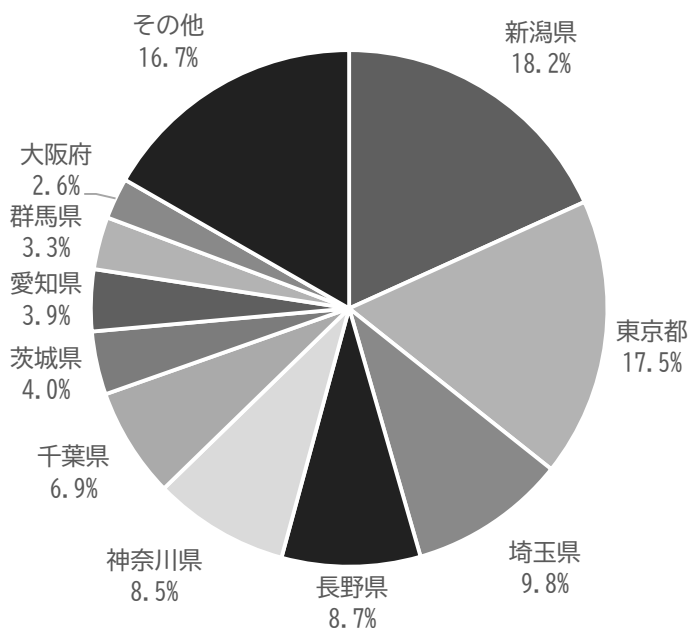
- 宿泊者の居住都道府県（宿泊者がどの都道府県から来たか）では、関東地方をはじめ、新潟県、長野県が上位の傾向にあり、平成30年と令和元年を比較しても概ね同じ傾向である。
- また、東京都民と新潟県民が同程度の割合で市内に宿泊している傾向が見て取れる。

令和元年 居住都道府県別割合



1位	東京都	35,575人	16.9%
2位	新潟県	32,247人	15.3%
3位	埼玉県	21,909人	10.4%
4位	神奈川県	18,709人	8.9%
5位	長野県	16,427人	7.8%
6位	茨城県	10,577人	5.0%
7位	千葉県	9,567人	4.5%
8位	群馬県	7,386人	3.5%
9位	愛知県	7,015人	3.3%
10位	大阪府	5,938人	2.8%
	その他	44,945人	21.4%

平成30年 居住都道府県別割合



1位	新潟県	28,987人	18.2%
2位	東京都	27,740人	17.5%
3位	埼玉県	15,649人	9.8%
4位	長野県	13,793人	8.7%
5位	神奈川県	13,518人	8.5%
6位	千葉県	10,945人	6.9%
7位	茨城県	6,297人	4.0%
8位	愛知県	6,141人	3.9%
9位	群馬県	5,225人	3.3%
10位	大阪府	4,087人	2.6%
	その他	26,550人	16.7%

出典：RESAS地域経済分析システム「From-to分析（宿泊者）」分析

本グラフの表示方法：観光マップ>From-to分析（宿泊者）>市町村単位で表示する>居住都道府県別に見る

※RESAS地域経済分析システムと市の宿泊者数調査の手法が異なるため、P6の数値と一致しない。

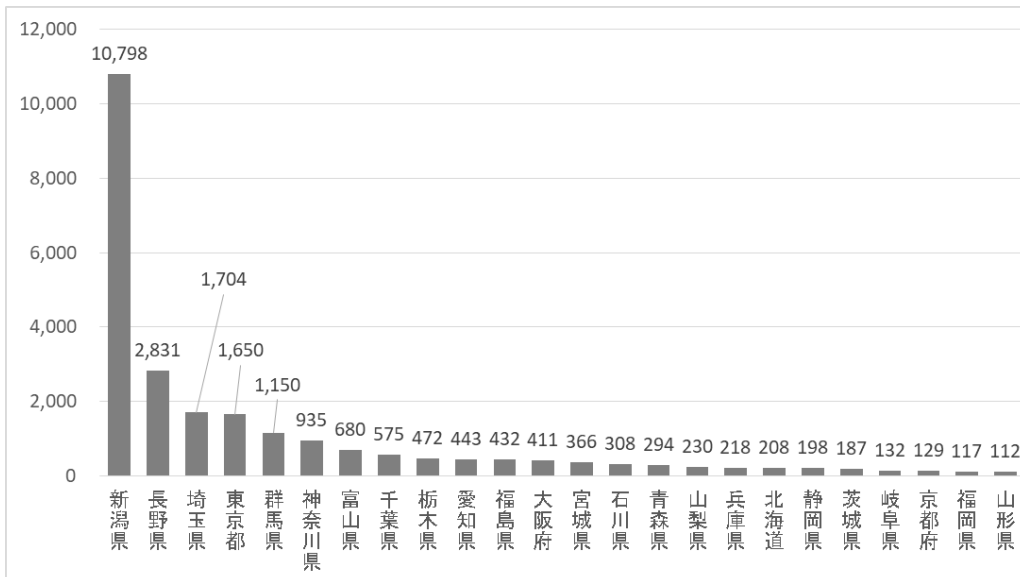
令和2年度上越市泊まって応援キャンペーンの実績からみる方面別人数泊

- 令和2年6月から翌3月まで実施した「上越市泊まって応援キャンペーン」の実績報告をもとに、「宿泊者の出発地」及び「宿泊人泊」の集計速報をまとめたところ、出発地では島根県、徳島県、愛媛県、長崎県を除く43都道府県からの来訪があり、総宿泊人泊が26,440人泊であった。

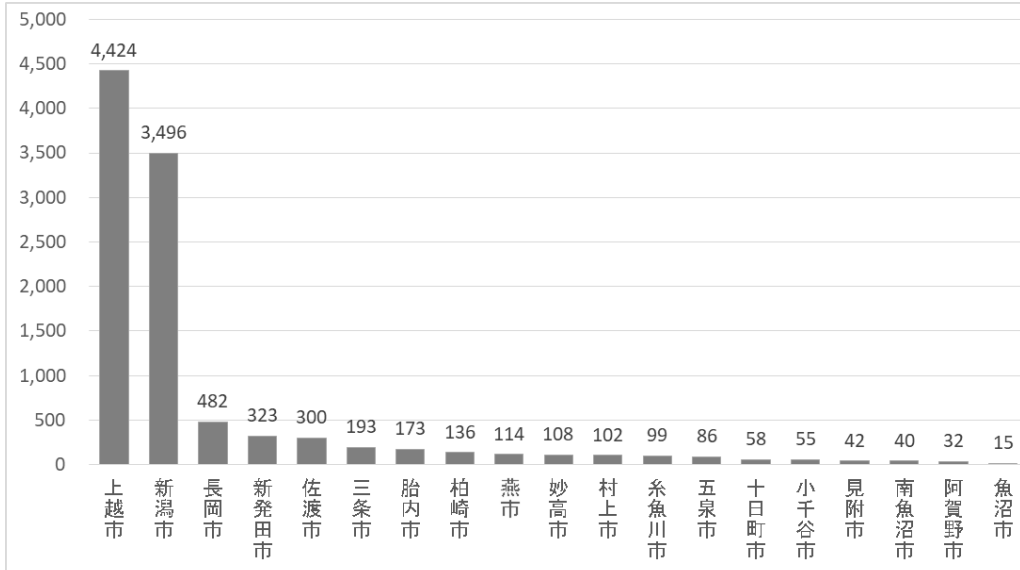
※総宿泊人泊＝宿泊数×宿泊人数の合計

- 都道府県別の上位5位は、新潟県10,798人泊、長野県2,831人泊、埼玉県1,704人泊、東京都1,650人泊、群馬県1,150人泊であり、全体の約41%が新潟県内からの来訪であった。
- さらに新潟県内市町村別の上位3位は、上越市4,424人泊、新潟市3,496人泊、長岡市482人泊であり、新潟県民のうち、約41%が上越市、約32%が新潟市の利用であった。

■都道府県別（30人泊以上のものを抜粋）



■県内市町村別（10人泊以上のものを抜粋）

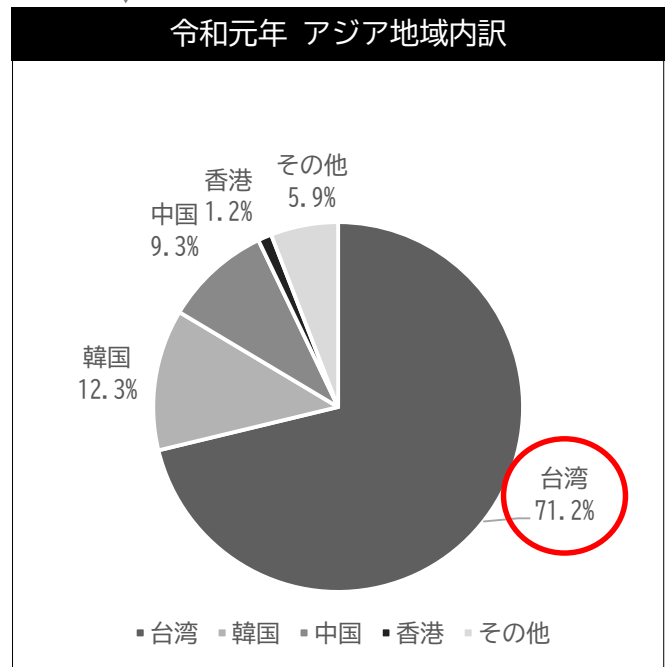
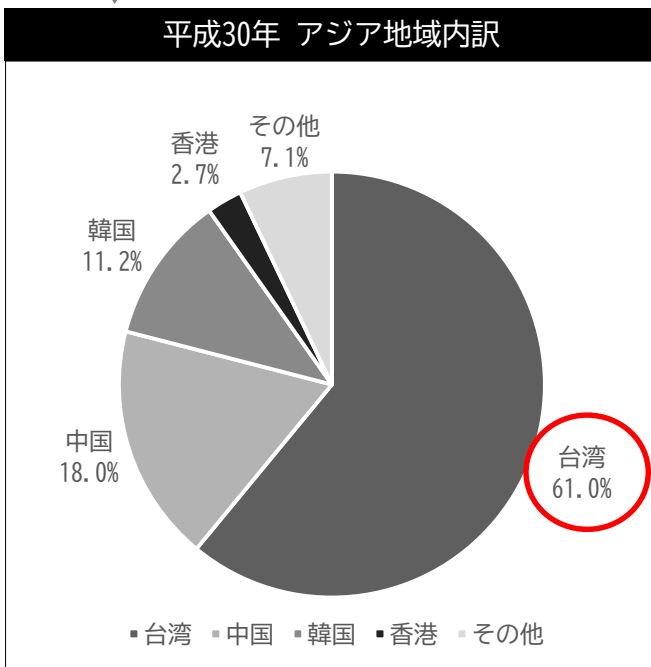
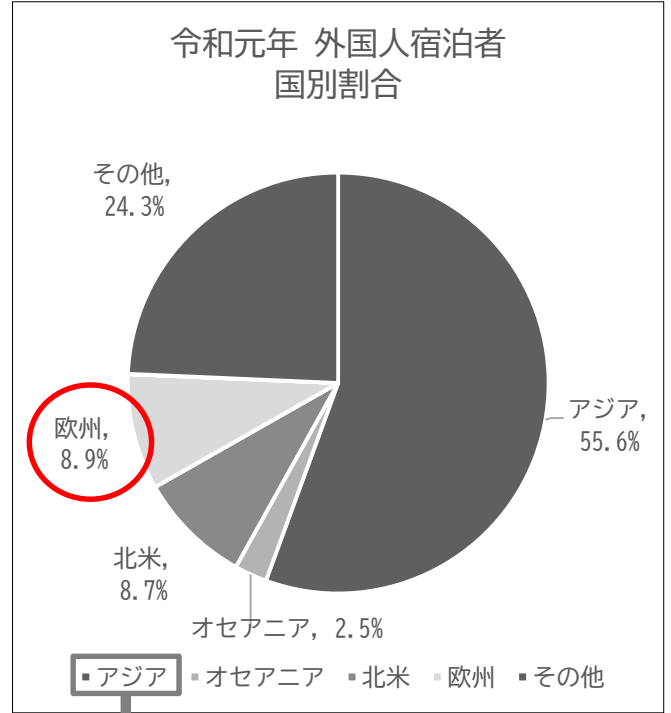
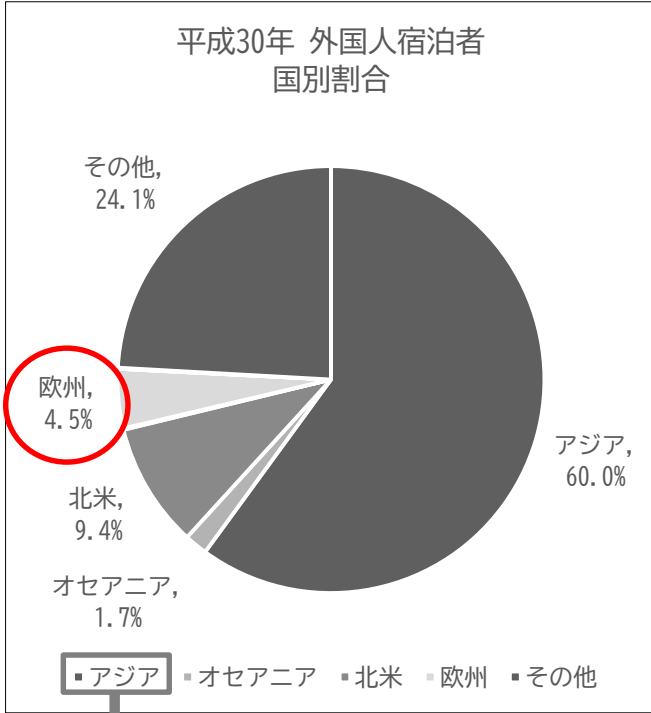


出典：上越市宿泊事業者応援緊急対策事業補助金の実績報告を基に作成

3. インバウンド

国別外国人宿泊者の割合

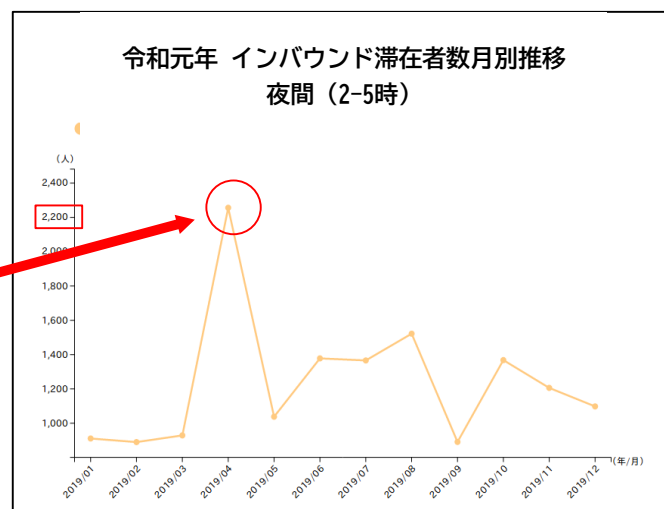
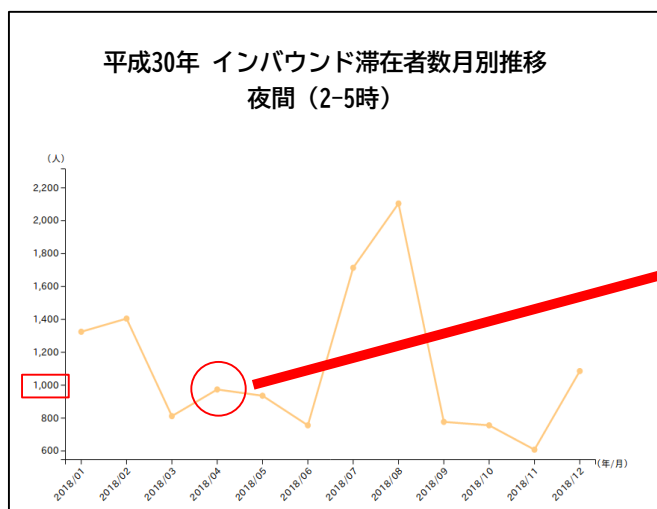
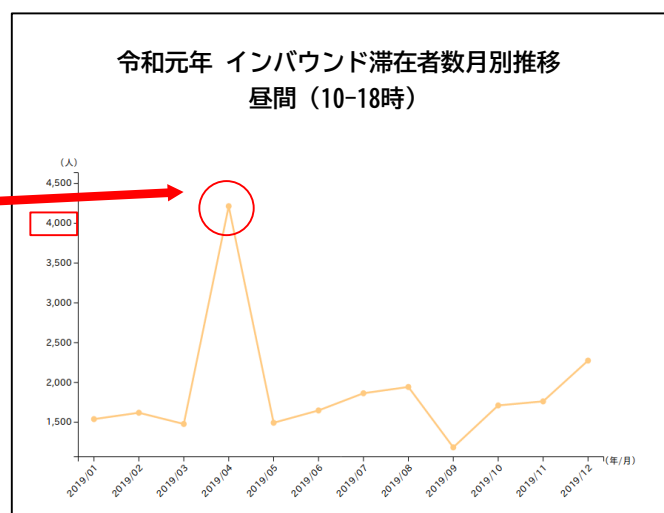
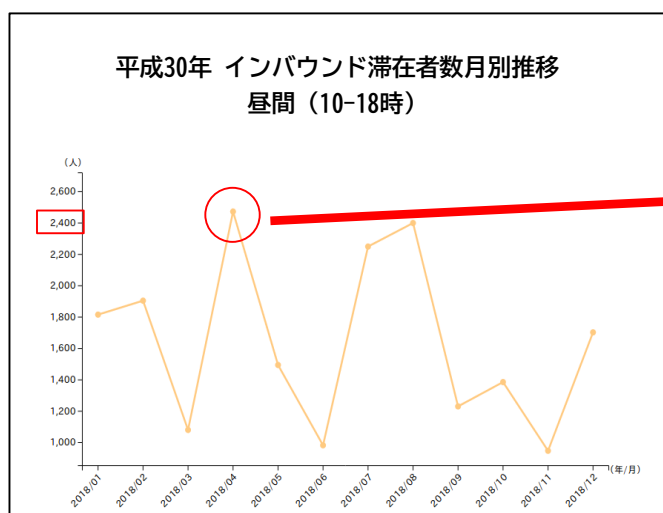
- 上越市の外国人宿泊者割合を国別で見ると、アジアからの来訪が最も多く、全体の5割以上を占めている。アジア地域を国別で見ると台湾が最も多く、令和元年度では71.2%を占めており、次いで韓国、中国の順に多い。
- 平成30年と令和元年では、欧州が4.4%増加したほか、北米とオセアニアは同水準で推移している傾向が見て取れる。また、アジア地域で見ると、台湾の比率が10.2%増加している傾向にある。



出典：宿泊事業者への上越市独自調査を基に作成

外国人滞在者数(RESAS地域経済分析システムより)

- 昼間帯では、平成30年と令和元年を比較すると、4月の滞在者が約1.7倍に増加している。また、夜間帯も同様に4月は増加傾向にあり、その数は約2.3倍となっている。
- 昼間帯及び夜間帯ともに、4月・8月・12月に比較的滞在者数が多い傾向にある。
- 各年における折れ線グラフは、昼間帯と夜間帯でおおよそ形が類似している傾向がみられるが、平成30年4月は昼間帯が年間の中でも大きな山を示しているのに対し、夜間帯はそれほど山が大きい。一方で、令和元年4月は昼間帯及び夜間帯ともに大きな山を示している。本データは昼間帯または夜間帯に2時間以上滞在した外国人数から算出しており、夜間滞在を宿泊と見立てると、令和元年4月は昼間帯に当市に滞在した外国人が、他市ではなく当市に宿泊した可能性が伺える。



出典：RESAS地域経済分析システム「From-to分析（宿泊者）」分析

本グラフの表示方法：観光マップ>外国人滞在分析>市町村単位で表示する>表示年月日を指定する>表示時間帯を指定する>推移を見る

4. 観光消費額

観光消費額

- 観光入込客の総消費額の推計値では、令和元年は144億8300万円で、平成28年度の前回調査時から26億2000万円の減額となっている。
- 観光客一人あたりの平均消費額単価をみると、宿泊では県内客より県外客が4,213円多く消費し、日帰りでは県内客より県外客が1,177円多く消費していると算出結果となった。
- 新潟県全体と観光客一人あたりの平均消費額を比較すると、宿泊では県内客・県外客ともに当市の約2倍の金額を消費している傾向にあるほか、日帰りの県外客も当市の約2.5倍消費している傾向がみられる。

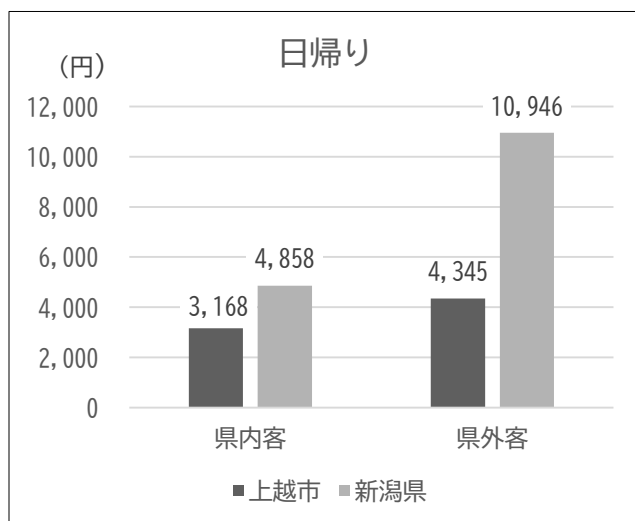
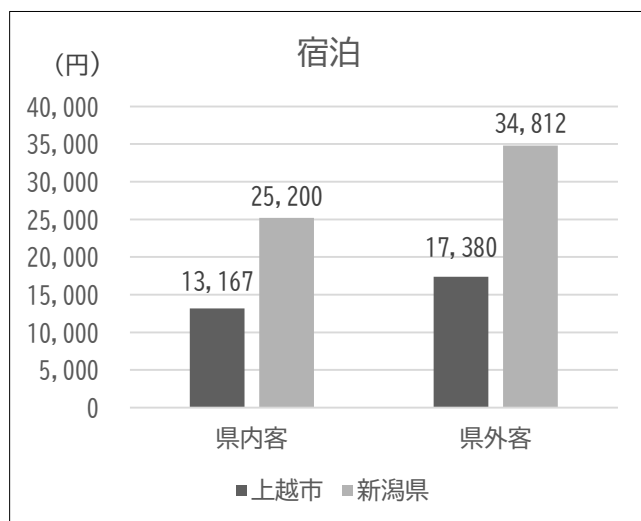
	平成28年度	令和元年	差額
観光消費額 (推計値)	171億300万円	144億8300万円	▲26億2000万円

※調査を休止したため、平成29年度及び平成30年度の数値なし。

※平成28年は年度で推計値を算出したが、国や県の集計方法と合わせるため、令和元年以降、推計値算出は暦年とした。

【令和元年 観光入込客1人あたりの平均消費額単価】※日本人・観光目的

地域	観光消費額単価 (円/人回)			
	県内客		県外客	
	宿泊	日帰り	宿泊	日帰り
上越市	13,167	3,168	17,380	4,345
新潟県	25,200	4,858	34,812	10,946
市-県との比較	▲12,033	▲1,690	▲17,432	▲6,601

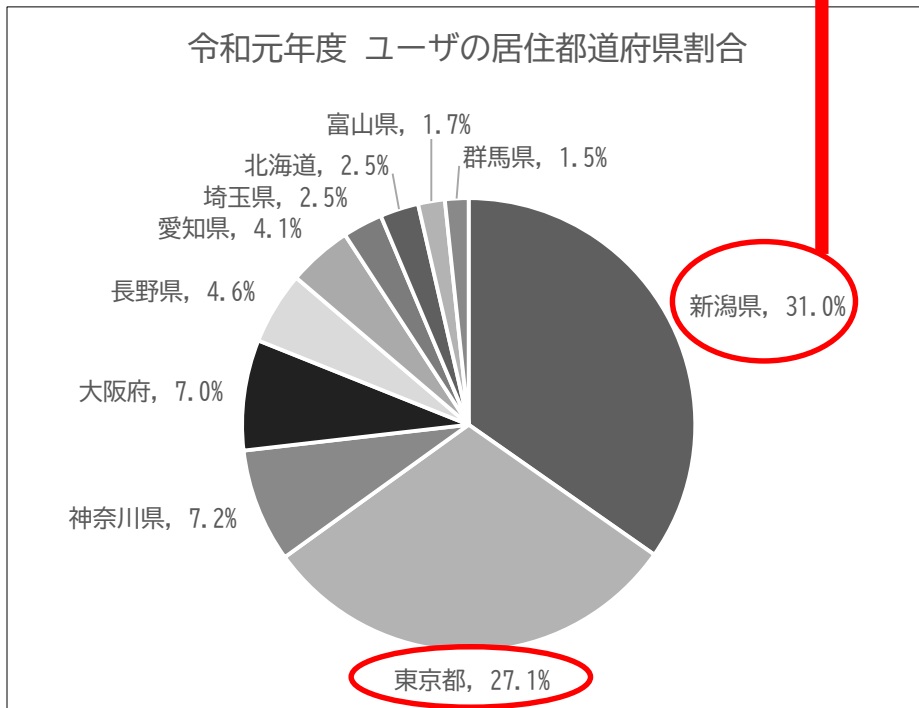
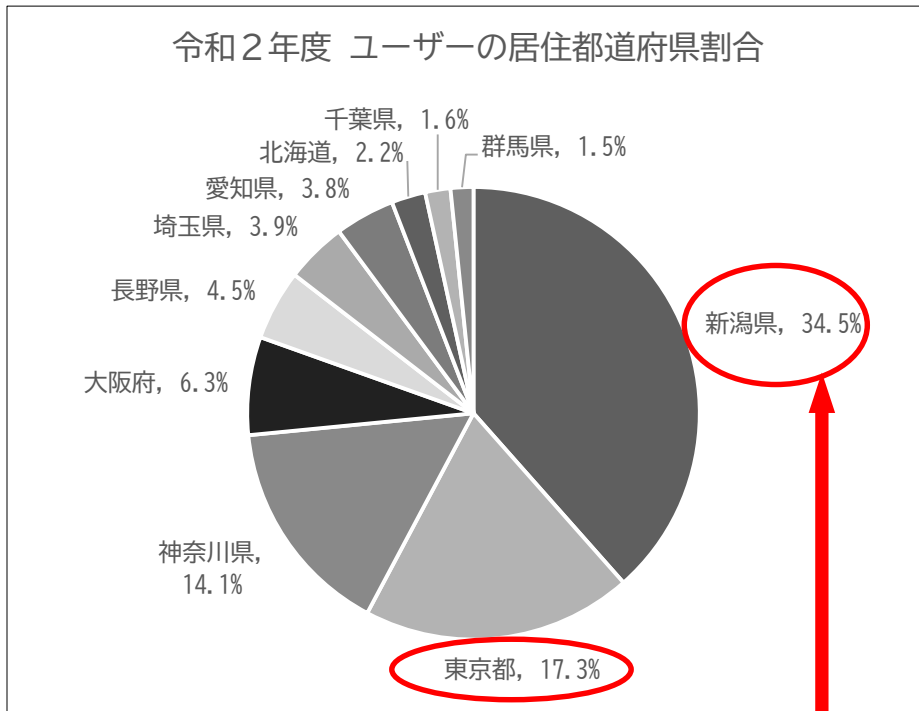


出典：「観光入込客統計に関する共通基準（観光庁）」に則り、上越市独自で観光地点パラメータ調査（聞き取り調査）を実施し、推計値を算出。新潟県の数値は、同基準による観光庁公表データを参照した。

5. その他

上越市観光情報サイト(上越観光Navi)アクセス解析

- 令和2年度の上越市観光サイト「上越観光Navi」における地域別ユーザー割合は、新潟県が最も多く、次いで東京都であり、令和元年度と同様である。令和元年度と比較し、令和2年度は新潟県のユーザー割合が3.5%増加し、東京都は9.8%減少となった。



出典：上越市観光NaviのGoogleアナリティクス分析

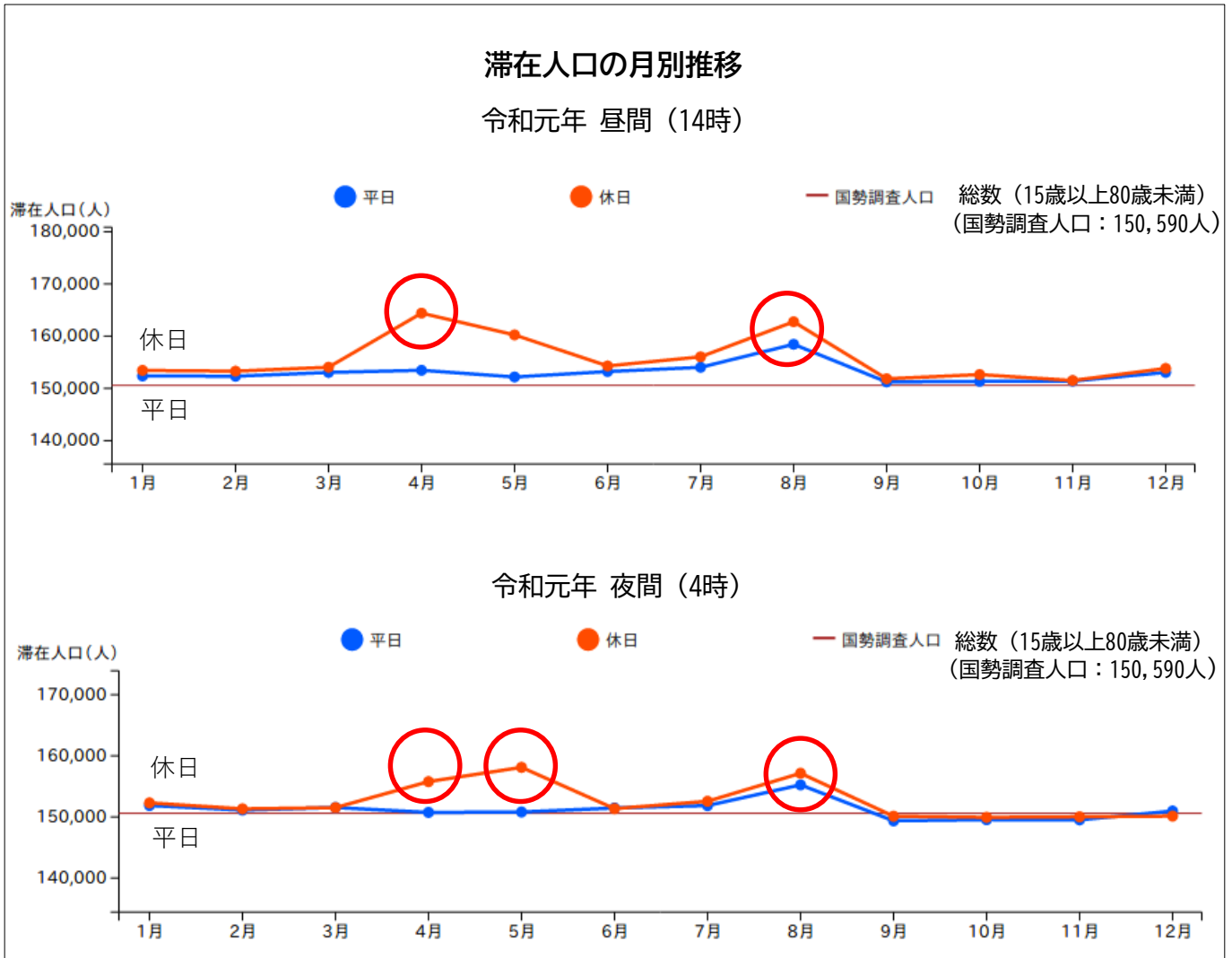
どの程度の人数が市外から来ているか(RESAS地域経済分析システムより)

【昼間（14時）の時間帯】

- 休日は4月が最も多く、次いで8月に多い傾向にある。
- 平日は8月が最も多い傾向にある。
- 国勢調査人口より概ね高い数値で推移しており、市外から人が流入し、滞在している傾向が見取れる。
- 一方で、9月、11月はオフピークの傾向。

【夜間（4時）の時間帯】

- 休日は4月、5月、8月に大きな山があり、5月が最も多く、観桜会会期の4月より多い。
- 日中と同様、平日は8月が最も多い傾向にある。



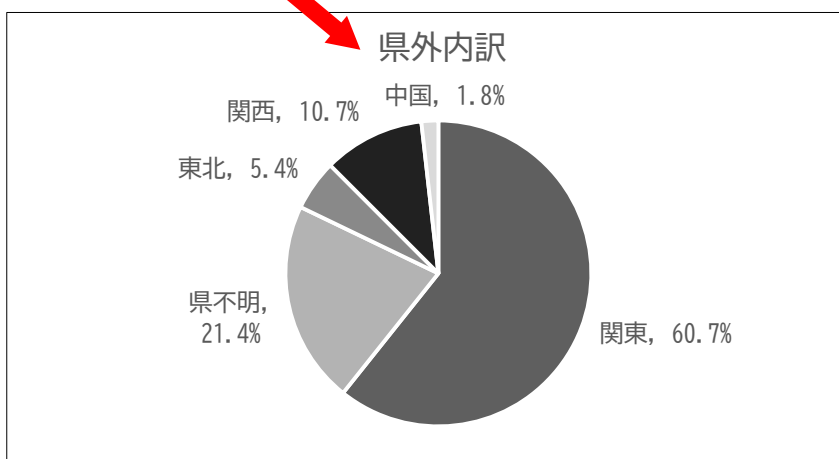
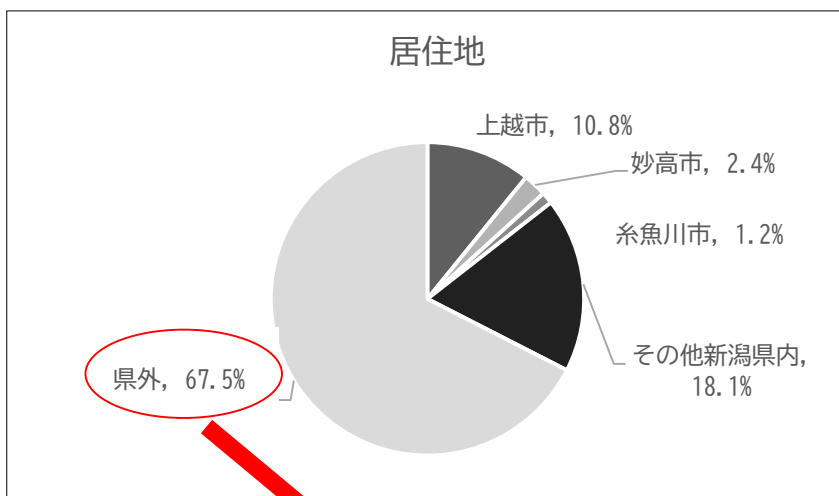
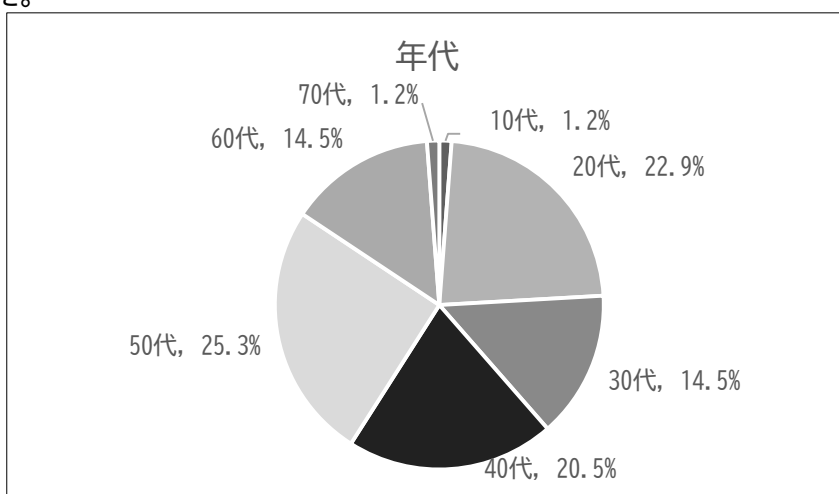
RESASの「滞在人口」分析は、上越市の人口に対してどの程度の人数が市外から来ているか把握できる。※滞在人口とは、指定時間に滞在していた人数の月間平均値（平日・休日別）を表しているものである。

出典：RESAS地域経済分析システム「滞在人口率」分析

本グラフの表示方法：まちづくりマップ>滞在人口率>表示年月日を指定する>表示時間帯を指定する>表示する性別を指定する（総数）>表示する年代を表示する（15歳以上80再未満）>グラフを表示

城下町高田レンタサイクル事業の利用状況

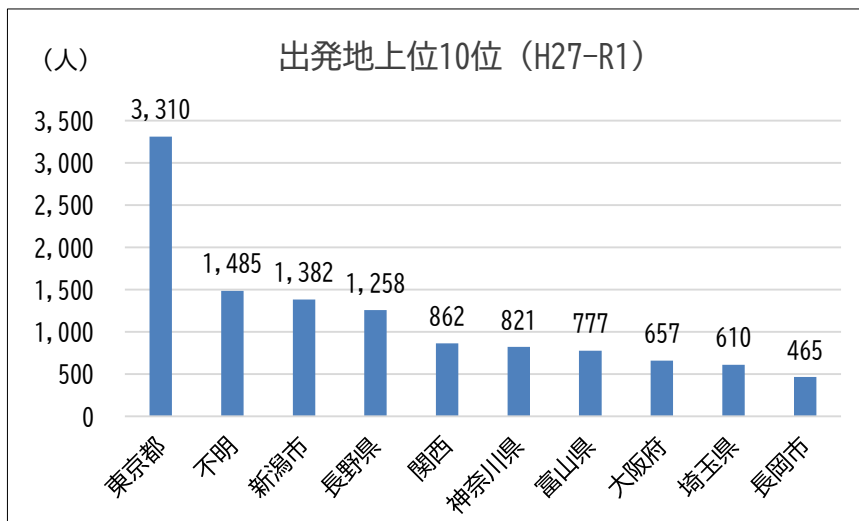
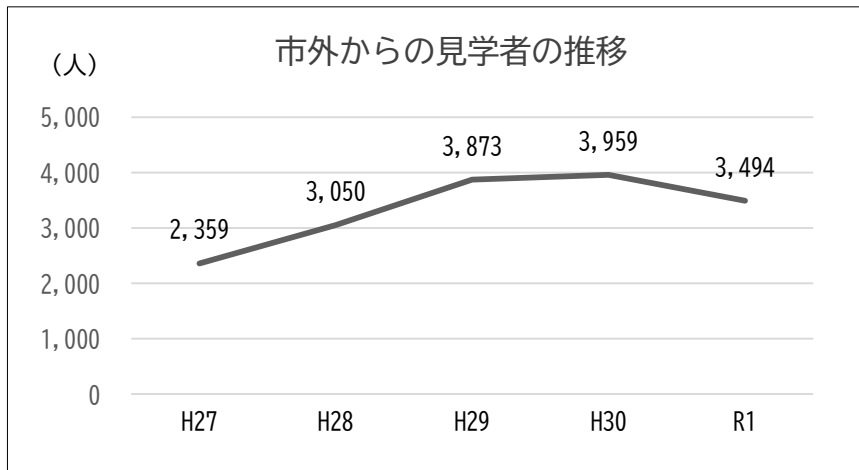
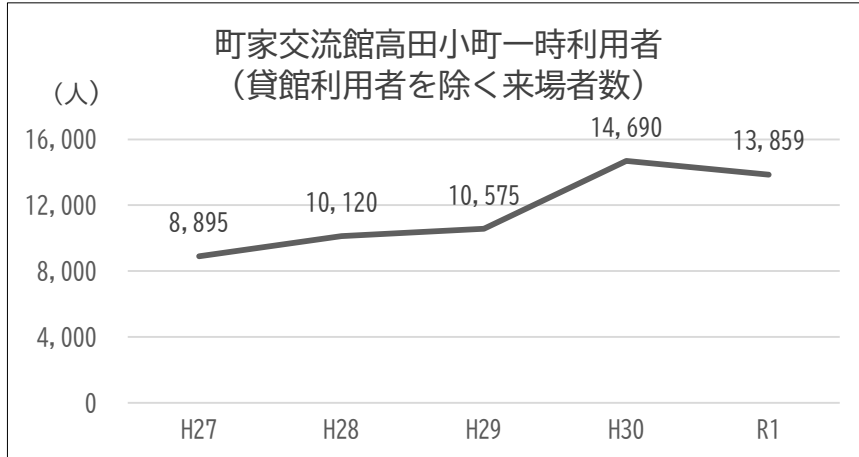
- 街なか回遊観光を促進するため、高田地区において実証実験として令和2年度からレンタサイクル事業を行い、7月18日から11月30日までの5か月半の期間で97人の利用があった。
- アンケート結果をみると、利用者の年代に偏りはみられず、20代から60代まで広く利用があった。
- 利用者の居住地では、県外の方の利用が67.5%と半数以上を占めた。県外利用のうち、60.7%が関東からであった。



出典：城下町高田レンタサイクル事業アンケート結果

町家交流館高田小町の利用状況

- 町家交流館高田小町の市外見学者は増加傾向である。
- 関東、新潟市、近県の見学者が多い傾向にある。



出典：町家交流館高田小町来館者実績報告書

※当調査は、管理人による聞き取り等通常業務の傍らで記録した日報等を基にしたデータを集計したもので、機械的に漏れなく全ての事実を集計したものではない。このため、当調査結果は、概ねの傾向を掴むための参考とし、活用にあたっては、これを踏まえたうえで利用されたい。

上越市観光交流ビジョンに基づく
上越市の観光に関するデータ集
令和3年4月 発行

発行 上越市
編集 上越市 産業観光交流部 観光交流推進課
〒943-8601 新潟県上越市木田1丁目1番3号
TEL (025) 526-5111 FAX (025) 526-6111
URL <https://www.city.joetsu.niigata.jp/>